

特  
集

中学校職業・家庭科

学習指導案の実例



NO. 9

—1952・6—

目 次

産業教育審議会の動向  
.....杉山 一人

中学校の生産主義教育  
.....清原道壽…(1)

学習指導案例…高薄重夫…(9)  
鈴木壽雄

研究成果としての教科書  
.....職業教育研究会…(15)

教科書検定制度を活かせ  
.....池田種生…(18)

地方だより(3)  
.....仲井 明…(20)

各地の研究講習会・研究会だより

## 産業教育審議会の動向を注視しよう

産業教育振興法の実施によつて、文部省に中央産業教育審議会が、各都道府縣に地方産業教育審議会が設置された。これら審議会の任務は、わが国全体及び各地域の産業教育振興のために、その方向づけと具体策を決定し、予算配分をもすることになつており、極めて重大である。われわれ職業教育にたずさわるものは審議会の持つ役割の重要性を認識し絶えずその動向を注視し、正しい職業教育実現に方向を誤らせないよう努力しなければならない。

○ 産業教育振興法に基く文部省の本年度の予算配分を見ると、中学校の分は僅か二千萬円で、職業高等学校の設備充実に六億圓が当てられて

いる。このような職業高校偏重の予算配分は、例え本年度の特殊事情があるとは言え（本機関誌八号参照）職業教育の正しい発展に対し、不安を感じ得ないのである。

○ 既にわれわれが唱えているように中学校に必須教科として職業家庭科が設置されたのは、わが国の社会経済的機構から見れば、その中に残っていた封建的残さを排除し、民主的機構再編成への基本的原則の一つの現れである。また教育思潮からすれば、指導者層には知育を中心とした普通教育を、一般庶民には職業教育をといて従来の方を打破し、「なすことによつて学ぶ」という職業教育思潮を経て「生産に通ずるしごと

を通して学ぶ」という段階に達している思潮の現れでもある。したがつて中学校の職業家庭科は、就職者のための職業予備教育ではなくて、民主的社會再編のために働きる人間が総て身につけなければならない一般的な普通陶冶として重視すべき教科である。

○ このように考えると、わが国の職業教育が、新体制に即応して正しい発展をするためには、まず中学校の段階の基礎づけにこそ重点をおくべきである。この基礎づけを怠つていたのでは、どのような産業教育の振興策を立てても、旧体制における職業教育振興策から一步も出ないものとなるのである。われわれはこのよるな立場から、審議会の動向を注視しなければならない。

（杉山一人）



# 中学校における生産主義教育

清原道壽

## 一、はしがき

最近、中学校において、生産教育への関心が、漸次高まってきた。とくに戦後において、新しい中学校のありかたについて、眞摯にやみ、中学校教育の中核を職業科の教育に見いだしていた学校では、中学校教育の目標として、生産教育をかかげるところが多い。

しかし、このような関心の高まりにもかかわらず、教育の実際において、生産教育の意義や内容は混迷の実情にあるといつてよい。

その原因は、一つには、戦後、敗戦という日本の社会的地盤を背景として、となえられている「生産教育論」について、十分な認識をかいていることにあるが、他方生産教育論そのものにも、幾多の未解決な問題が残つてゐることによるともいえる。

ここにまず、現在、生産教育論に対して提起されている問題点について究明することによつて、中学校における生産教育論のありかたを方向づけることにしよう。

## 二、生産教育と「増産教育」

生産教育という言葉は、戦時中の「生産増強の教育」を連想させるし、事実、戦力増強を旨とする教育を「生産教育」という言葉でよんでいた。これが現在の「産業教育振興法」の経営者的な解釈や、再軍備への動きとむすびついて「生産教育」というと、経営者の立場にたつ「増産教育」と考えられる傾向がある。これらの傾向への批判から、「生産教育は再軍備のために青少年の労働力を一方的に利用するようになる危険性をはらむものだ」とされるのである。

われわれは、このようなことにならないように生産教育を方向づけるために、生産の意義を考えてみよう。

生産とは、社会の生産力と、人と人との生産関係を包含しており、かくして物質的財貨の生産過程におけるこれらの統一の体現であるということが出来る。

しかして社会の生産力は、生産要具と、人間が生産要具の助けをかりて働きかける労働対象、および人間の労働力からなりたつていているといえる。

ところが資本主義的な生産関係においては、生産要具と労働対象が、資本家階級に所有されている。したがって経営者にとつて、労働力の提供者である青少年が「つかいやすい、すぐ役にたつた産業人」として育成されていけば、生産を戦争のために容易に切りかえることができるのである。しかも経営者は利潤が多ければ、破壊のための戦争生産であつても、決して意に介しないことは、今までの資本主義の歴史が証明しているところである。

生産教育の目ざす生産人の育成が、このような「つかいやすい、すぐ役にたつた産業人」の育成に墮したとすれば、生産教育は「戦争生産のために青少年を一方的に利用する教育だ」という批判は、正しいといわざるをえないことになるだろう。

しかし社会の生産力において、もつとも重要な役割りをはたすものは、生産要具を動かす、物質的財貨の生産

を実現する人間である。そして生産教育は、この生産を担う人間を正しい社会認識とすぐれた技術をもつように育成することに中心目標をおくのである。

では生産人のもつべき正しい社会認識とは何か。

第一に戦争のための生産を拒否する行動を裏づける社会認識である。生産の重要な担い手が労働者である限り、その労働者が戦争反対へ一致して行動することによつて、戦争のための生産は停止するのである。このようにな一致した行動がとれるには、全労働者が社会の進化発展の原動力である生産の社会的意義について、正しい認識をもつことを必要とする。

中学校における生産主義教育の目ざす生産人は、生徒が将来このような社会認識をもち、行動する人間となることを目ざして教育すべきである。

つぎに今後の生産人は、生産されたものが一部の者に独占されていないか、生産が社会公共のために使われているか、そのよつてくる原因はどこにあり、その解決点はどこにあるかを正しく認識し、独占によつて生れている社会の矛盾をよりよく変えていくような行動を裏づける社会認識を身につけなくてはならない。中学校における生産主義教育では、このような社会認識を生徒に獲得さすべきである。

中学校における生産主義教育が、このような社会認識をもつ生産人を育成していくとき、この教育は、戦力増強の「生産教育」や、単なる増産運動的な「生産教育」に墮することはないといえる。

### 三、産業の動向と生産主義教育

生産教育についての第二の問題点として、つぎのような疑問が提出されている。すなわち、「生産教育では、生産力の高い近代的な職能人の育成ということをいうが、今後の社会的生産の発展の方向の見とおしを具体的にどう推定するか。また将来の職能人として、いかなる生産技術を準備すべきか」との課題があげられている。

これに対してわれわれは、つぎのような観点にたつている。

わが国の今後の産業の動向は、輸出貿易に重点をおき、輸入資材を加工したり、国内資源を高度に利用すべきである。

戦前のわが国の輸出貿易は、セニイ工業を中心とする軽工業製品に重点があつた。しかし現在において、セニイ工業部門をみるに、一方ではアジア諸地域に紡績業を中心とする軽工業が発達してきたし、他方、アメリカに化学セニイ工業が発達したため、生糸の輸出が不振とな

つている。したがつて今後のわが国の輸出貿易としては、セニイ工業に期待をかけることはできない。

しかし日本は東洋諸地域の工業化を実現するために、生産設備資材を提供しうる東洋で唯一の国であり、またこれらの諸地域の食料品を中心とする原料を消化しうる国でもある。これらのことから、今後の日本の産業の発展動向は、重化学工業・精密機械工業を中心とするものと見とおしてよい。

しかし日本の重化学工業・精密機械工業は、戦前から戦後にかけて、政府の手厚い保護をうけながら、労働生産性は低くかつた。これは、現在までの日本の資本主義が絶対的剰余価値生産を中心となまれていたからである。すなわち日本では多数の労働者を低賃金・長時間で働かせることによつて剰余価値を生み出すという生産方式がとられていた。そして一般的には、労働者の労働生産性を増大させることによつて剰余価値を生みだそうとする相対的剰余価値生産方式に考慮をばらわなかつた。これは、日本の資本主義の後進性を特徴づけるものともいうことができる。

ところが戦後の民主化や労働運動により、絶対的剰余価値生産をささえていた低賃金・長時間労働は是正されざるをえなくなつた。その結果、生産品を国際価格と競

争できるコストにするためには、労働者の労働生産性を高めるよりほかに方法はなくなつたといえる。

労働生産性を増大させるためには、直接には生産過程を組織化し改善することであり、間接的には、労働者の文化の物質的生活を高め、教育と文化水準を向上させ、労働者が、自覚して自発的に働き先進技術を駆使できるように育成することである。

生産教育は、今後の日本の産業の中心的な動向を重化学工業・精密機械工業だと見とおし、その工業において労働生産性の高い生産人を育成することを目標とすべきである。

しかしてこれらの重化学工業・精密機械工業の生産技術は、他産業の生産技術とくらべると、もつとも高度の技術を要する。また たえず進みつつある技術に常に応じうるためには、その技術教育は総合的でなければならぬ。

このことから 中学校の生産主義教育において、いかなる内容の生産技術の基礎的陶冶をなすべきかといえ、重化学工業・精密機械工学の生産技術を規準として最低必要量を抽出すべきである。

#### 四、基礎的陶冶としての生産主義教育

つぎに中学校の生産主義教育というと、生徒をなにか生産に直接参加させることだとの考えから、つぎのような批判が生れてくる。

それは「日本の近代化のため、工業生産の高度化と農業の近代化が緊急の課題であるという事については、異論がないが、その国家的要請をただちに生徒の生活の中にもちこむことはどうか。末梢的な生産能力を近視眼的に与えようとする、このような早急なもちこみかたには問題がありはしないか。」というのである。

生産教育の一部の論者には、中学校の生産教育をもつて、生徒を生産活動に直接参加させることだと考えたりさらに学校を経営企業体に改組しようとする教育の形態をもつて、これこそ一般的な中学校の生産教育だと考えている。たとえば農村中学校の生産教育というと、せまい地域社会の調査を行つて、その調査にあらわれた地域社会の要求をもとに、養鶏をやつて卵を商品化したり、農産加工場などを学校で経営してその製品を売りますことを予想するし、都市だと、コーオペレーティブ、システムの名のもとに中小企業などに実習することをもつて、中学校の生産教育だと考えがちである。

しかし日本の自立的経済の確立という課題は、せまい地域社会の調査や要求から 解決されないことである。

また中小企業での実習は、近代的生産人の基礎的技術の陶冶にとつて決して高く評価できないものである。もちろん技術教育は現場で行われるとき、もつとも効果的に指導ができるというとはいへても、営利を目的とする生産の條件と能率的な教育とは両立しえない。すなわち能率ある生産を目的とする職場は学校の立場にたつ訓練計画を有効に行うことをよるこばない。しかも中小企業の協力実習は、年少労働力を低廉に利用するばあいが多く、「教育に理解ある」企業者がまことに少いことは、高等小学校の校外実習以来の事実が証明するところである。

したがつて現在の一般の中学校における生産主義教育のありかたは、以上のようにいたずらに直接、生産活動に生徒を参加させることとしたり、さらには農業や工業の直接生産を経営していくことだけに主眼をおくべきではない。中学校の生産教育は、生徒たちが将来有能な科学的生産人となるための基礎的陶冶を行うことを中心目標とすべきである。すなわち、中学校の生産教育は中学校教育の全体系を將來の社会的生産技術とむすびついた基礎的教育となるように組織するところにある。

たとえば児童・生徒の学習活動において、いろいろなグラフをかくばあいにも、鉛筆のけずりかたや使いか

た、定規やコンパスの使いかた、字のかきかたなどに、近代的工場で使われている機械製図の基礎がとりいれられて指導するようにすべきである。そうすることによつて、グラフはきれいに正確にかくことができるのである。このことによつて、学校は近代的な生産技術と結びついた基礎的陶冶を行う場となるし、児童・生徒の学習生活の体験とむすびついて、生産技術の基礎的陶冶が行われるのである。

また木工用具を使つて木工作をするばあいにも、近代工場でとりいれられている木工技術、たとえば木型製作工場における木工技術の基礎的技術がとりいれられなければならない。

つぎに用具的教科としての数学に例をとると、たとえば分数計算においては、旋盤（勾配けずりやネジきり）やフライス盤（割りだしクラシクの回転量など）ノギスなどに使う計算が、国民生活で普通に使われる分数計算の最高のものといえる。したがつて、これらに使われる分数計算から中学校の数学の分数計算の範囲をきめ、分数計算の最低必要量をきめ、これだけはクラスの中の少くとも九五%以上の者が身につけるように指導するところに、中学校の生産主義教育のありかたがある。

以上のべてきたように、一般の中学校の生産主義教育

は、生産を直接、学校にもちこむまえに、将来の生産技術とむすびついた基礎的な陶冶を目ざすところに、そのねらいがあるべきである。

## 五、生産主義教育と各教科のありかた

中学校の生産教育の目標とする理想的人間像は、科学的な生産人である。このことは中学校教育の全体系をこの目標に再組織することを意味する。いいかえれば、中学校の生産教育は、単に一教科または数教科を生産と結びつけることではなく、中学校の全教育課程を科学的な生産人を目標として再編制することである。

現在 中学校の生産教育というと、職業・家庭科の教育だけが関係をもち、他の教科の教師は、自己の専門外のこととして無関心の実情が多い。

しかし中学校の生産教育が科学的な生産人を目標とするものであり、この科学的な生産人は「自然及び社会の法則を認識し、合目的に自然に働きかけることができる」、そのために共働的な活動に参加することができる人間であり、また、そういう活動が成立しうるような社会的条件をつくりだすために、有能に行動することができるような人間」であると規定することができる。このよ

うな人間の育成のための中心的な内容教科を現在の中学校のカリキュラムにみると、職業（家庭）科、社会科、理科となる。中学校の生産教育のカリキュラムは、職業（家庭）科を中核に、社会科と理科を両翼とし、他の教科は、これらの中心的な内容教科の学習を展開するための基礎的な用具教科として構成すべきである。

中学校の生産教育の中核として、職業（家庭）科をみると、この教科は、生産力をささえている近代的技術の基礎的陶冶を中心目標とするものといえる。しかし現在の中学校における職業（家庭）科の教育内容は、以上の意味の基礎陶冶として、混乱している。

その混乱の原因の第一は、「しごと」とか「生活技術」を中心に学習する教科として、職業と家庭を一つにして職業・家庭科としたことにある。「しごと」を学習する教科は、職業科、家庭科だけに限らないし、その各々のしごとの内容からいえば、日本では、生産技術と家庭生活技術とは全くちがうものが多い。その内容を抽象して「しごと」や「生活技術」という言葉の共通性から、教科として一つにすべしという理論はでてこない。しかも文部省案にせめられたように、女子は家庭生活のしごとを中心とする女子向コースを学習することになり、近代的生産技術の基礎的陶冶は等閑視されることになる。したがって中学校の生産教育の観点にたつばあいに、男女



ともに近代的生産の基礎的技術を必修コースとして学習させ、家庭生活技術のコースは女子中心の選択必修コースとすることが望ましい。そのためには職業科と家庭科は分離すべきである。

つぎに職業・家庭科の性格づけとして、啓発的経験の意義の過重評価である。このため職業科の実習は、適性発見のためのトライ・アウトであるとし、できる限り多くのしごとをあれこれとやつてみて、その過程において適性を発見させることに、職業科教育の主要目標をおこりとする事となる。そこでは近代的生産とむすびついた基礎的技術の教育は等閑視され、その教育内容も、トライ・アウト的な観点から選ばれがちになる。また一方「役にたつしごと」という性格づけから、そのもつ基礎的技術を、近代的生産との関連から考えないで、単に身のまわりにある日用品をつくるしごとをもつて、職業・家庭科の教育内容としてとりあげることになる。

これらの二つの観点から、たとえば金工のしごととして、モチアミの針金工作をとりあげたり、手工的なサジを教材としてとりあげることになる。そしてこれらの手工作を通じて、「手先の器用さ」や「目と手の共応」をみようとすらし。ところがこれらの工作に含まれている技術は、およそ近代生産における基礎的技術とは関連

のない前近代的なものである。このようなしごとからは中学校の生産教育の目ざす基礎的技術の陶冶は望まれない。

つぎに中学校の生産教育の中心的内容教科である社会科学のありかたについてであるが、これについては 前述したような社会科学の認識の基本を教えるものとして、現在の社会科学の再構成をはからなくてはならない。科学的生産人として必要な社会科学の基礎的陶冶を目ざす教科が社会科学である。その内容は社会の現状肯定の立場にたつ「社会奉仕」の教科でなく「社会改革」の教科として再組織されるべきである。

理科については 現代の生産技術とむすびついた自然科学について学習するように教材が考えられなければならない。たとえば 植物教材は栽培の基礎的技術を、動物教材は飼育の基礎的技術をといつたように、生産技術との関連において、現在の理科の教育内容を再構成すべきである。

以上は中学校の生産主義教育の中心的内容教科である職業（家庭）科、社会科、理科のありかたであるが、他教科も近代的生産技術の基礎的陶冶となるように再編成されるべきである。（国学院大学助教）

## 生産教育に関する参考文献

戦後の生産教育論の提唱者ともいふべき 城戸幡太郎氏、それを発展させた宮原誠一氏の理論を研究する参考文献としてはつぎのものがある。

城戸幡太郎 日本のカリキュラム (評論社)

この論文集の中で「生産学校の構想」に城戸幡太郎氏の理論が要約されている。

宮原誠一 教育と社会 (金子書房)

この論文集の中で「生産主義の教育課程」を参考とすべきである。

城戸幡太郎 生産教育の技術 (小学館)  
宮原誠一

本書は理論篇と実践篇にわかれ 実践篇は各小・中学校の実践報告である。理論篇が両氏によつて執筆されている。宮原誠一氏の論文「教育における生産」において、どのような角度から生産を教育の中心概念としてとあげるかが、詳しく分析されている。

磯野昌蔵 学校の生産計画 (目黒書店)

「講座・学校教育」第二巻 「学校と教育計画」に所収の論文である。

以上のほか、雑誌などに掲載された論文があるが、入手しがたいと考えるのでここには省略する。

以上は戦後に発表された 生産主義教育論に関する代表的なものであるが、国家の教育方針として生産教育をとりあげているソビエトの教育は、わが国の生産主義教育を研究するに重要な資料を提供してくれる。ソビエトの生産教育を理解する文献としては、つぎのものがある。

グルブスカヤ 国民と生産教育 (刀江書院)  
勝田昌二 譯

矢川徳光著 ソビエト教育学の展開 (春秋社)

以上は戦後に日本で出版されたもので入手可能のものである。戦前に翻訳されたもので、現在入手困難であるが、生産教育の重要な参考文献としてつぎのものがある。

ブロンスキー 労働学校 大思想全集一〇九  
堀秀彦 譯

# 職業・家庭科の学習指導案例

## (單元) 学校新聞の編集

### 騰写印刷の指導 (都市向教科書 第二学年三七ページ)

高 薄 重 夫

#### 一、指導の目標

1、学校新聞を編集し、新聞発行の企画・取材・編集について実習させる。

2、新聞関係の職業への基礎的な体験を通じて適性を発見させる。

3、学級新聞を騰写印刷し、高級の騰写技術を習得させる。

4、騰写印刷を実習させ、その適性を発見させる。

#### 二、指導の計画

1、社会科の新聞学習の計画と連絡して実習計画を立てる。

2、各種の商業新聞および他校の学校新聞や学級新聞と比較対照しながら、新聞のていさいおよび編集方法を計画させる。

3、学級新聞の発行は職業調査の予告、結果の整理、報告などの機会をねらい、新聞発行そのものの実効を理解させる。

4、一年の単元各種の帳簿、カード類の騰写印刷と関連して指導する。

5、実社会と直結する騰写技術を習得させる。

6、指導計画表 (総時数一三時)

学習項目	準備	取材および記事の書き方	編集
配当時間	2	1	2
学習内容	1 各種商業新聞の発行の準備 2 学級新聞の発行の準備 3 学級新聞の発行の準備 4 学級新聞の発行の準備 5 学級新聞の発行の準備	1 企画・取材・編集の体験 2 学級新聞の発行の準備 3 学級新聞の発行の準備 4 学級新聞の発行の準備 5 学級新聞の発行の準備	1 各種商業新聞の発行の準備 2 学級新聞の発行の準備 3 学級新聞の発行の準備 4 学級新聞の発行の準備 5 学級新聞の発行の準備

騰写印刷	見学	反省と 価値
7		1
2 1 記事製版 文字・見 出しのつ ぶし さし絵の製 版(本時) 色刷りの製 版 印刷	1 騰写印刷社 の見学(特 別教育活動 による)	1 反省記録表 の記入(生徒) 1 評価記録表 の記入(教師)

### 三、指導の準備

- 1、各種商業新聞・他校の学校新聞・学級新聞を集めておく。
- 2、つぶし文字、さし絵など騰写印刷の見本を準備する。
- 3、必要な器具を各グループ毎に準備する。
- 4、学校で一括して購入する材料を

予め取りそろえておく。

### 四、本時の指導目標

(小単元、さし絵の製版)

- 1、印刷目的に応じた製版用具、材料の選びかたを習得させる。
- 2、つぶし文字製版の発展として、さし絵、製版の基礎技術を習得させる。

### 五、本時の指導計画

- 1、つぶし文字の製版と関係づけて指導する。
- 2、実際に挿入するさし絵と連関して指導する。
- 3、さし絵の発展としての色刷り製版を考えて指導する。
- 4、学校の設備を考えて実習可能な計画をたてる。
- 5、一時間で指導する。

### 六、本時の指導準備

- 1、製版に必要な用具と材料
- (1) 学校が準備するもの  
斜ヤスリ(A・B面)、絵画ヤ

- スリ、アートヤスリ、修正液、油トイシ、ワイヤーブラシ、上質の原紙
- (2) 生徒が準備するもの  
鉄筆(小文字用、大文字用、つぶし用)  
定規(美術定規、三角定規、物さし)
- 2、参考資料
- (1) カット集、学級新聞、学校新聞、生徒会誌などの参考資料
- (2) プリントの各種ヒナ型
- (3) 原紙のセンイ向流とつぶし方の順序をあらわした掛図
- (4) つぶし文字製版の順序をあらわした図
- (5) つぶす箇所と使用ヤスリ、使用鉄筆をしめす図
- (6) つぶす箇所と鉄筆の角度をあらわした図
- (7) 原紙のはがし方をしめした図

### 七、本時の指導過程

### 1、導入段階

- (1) 用具・材料の整備と点検をする。
  - (2) 用具の名称と使用目的を知らせる。
  - (3) ヤスリを掃除させる。
  - (4) 視覚教具を使用して、つぶし文字製版について話し合いをする。
  - (5) 参考資料によつて、さし絵製版についての予備知識を与える。
- 2、展開段階
- (1) 参考資料や創作による原画の模写をさせる。
  - (2) 原紙を固定させる。(掛図使用)
  - (3) 表現の目的によつて、ヤスリの選定と使用方法を指導し実習させる。(都市向教科書二年四三ページさしえ参照)
  - (4) つぶす広さによる鉄筆の選定

を指導する。(掛図使用)

- (5) 原紙センチ向流と鉄筆の運行を指導し実習させる。(都市向教科書二年四三ページさしえ参照)
- (6) 広い場所のつぶし方を指導し実習させる。(都市向教科書二年四三ページさしえ参照)
- (7) つぶしむらの発見法の指導をする。
- (8) 原紙のがし方を指導実習させる。(掛図使用)
- (9) 二度つぶしをしないようにす

### 3、整理段階

る。

- (1) 実習・作品についての反省。
  - (2) 次の時間の予定と準備について話し合う。
  - (3) 用具の手入れと処理をさせる。
  - (4) 実習反省記録表記入(生徒)(記録表具体例省略)
  - (5) 評価記録表記入(教師)(記録表具体例省略)
- (東京都新宿区立牛込第一中学校)

## ホームプロジェクトによる 修理実習の指導のしかた

鈴木 壽雄

### はじめに

第二類関係の学習形態を教材の性質の面から大別すると

- (1) 製作実習
  - (2) 操作実習
  - (3) 修理実習
  - (4) 製図実習
- の四つになる。この中、修理実習

は、学習指導要領の分解・修理の項目内の仕事例をみてもわかるように学習の場所が家庭であるばあいが多い。

ところが、農業や家庭の仕事のように、家庭にその指導者がいるばあい（家庭に関する仕事については母姉が、農業については父兄が指導者となり得る）は、従来のようなホームプロジェクトによつて指導可能であるが、電気関係の仕事のように、家庭にその指導者を求めることができないばあいには、生徒がこのような機会にぶつかつたとき、自らの力で問題を解決できる能力をもたせておくべきである。そのためには、学校でどのように指導すべきであろうか。

ここにホームプロジェクト法の問題点を探索し修理実習の正しい指導法のあり方を志向しようと試みた。（構想）ホームプロジェクトによつ

て組織する。

（問題点）ホームプロジェクトのもつ欠陥を克服し、その特質を有効に活かすにはどのように配慮すべきか。

### プロジェクト・メソッド

1、意義 プロジェクトとは自然的環境において疑問的な行動を完成に持ち来すことである。

（J.A.Stevenson）

### 2、特質

イ、即生活的である。

ロ、生徒の自発活動が主体となる。

ハ、生きた知識や技能を身につけ得る。

ニ、一層広い研究へ移行する。

### 3、欠陥

イ、試行錯誤（trial and error）

の過程をたどり易い。

ロ、教師の指導が放任に流れ易

い。

ホームプロジェクトのばあいは特にこの欠陥が強められる。

### （解決への基本視点）

1、技術教育の特質 技術とは、生産的（人間的）実践における客観的法則の意識的適用である。従つてその特質は、

イ、実践に先立つ体系的組織的知識が用意されるべきである。

ロ、実践の過程において、それは統一的計画的でなければならぬ。従つて、試行錯誤は許されない。

2、安全教育の特質 近代機械文明の発達には生徒をして予想できる事故、災害などの危険から守ることを、教育に要請している。従つてこの視点からも試行錯誤は許されない。

### （仮設）——修理実習の指導法——

1、学校においては、ヒナ型経験や演示学習によつて技術の指導をな

し、ホームプロジェクトへの導入とする。

2、家庭において修理の機会にぶつかったとき、生徒は自ら計画を立て、自己のもっている技術的知識や技術を十分に駆使して修理実習をする。

3、つぎに、生徒はホームプロジェクトで実習したことについて、レポートを作成して教師に提出する。

4、最後に、学校において適当な時期を選んで、これらのレポートに基づいて研究発表や討議を行いホームプロジェクトの成果について評価を行う。

以上の指導法を「電熱器具の取り扱いと修理」を例にとつて実的に展開してみよう。(職業教育研究会 編都市向・家庭向各二学年の単元)

### 電熱器具の取り扱いと修理

#### 一、指導の目標

1、電熱器具の構造上の特色を理解させる。

2、電熱器具に起り易い故障の修理技術を習得させる。

3、電熱器具を合理的に取り扱うことによつて、電気を危険なく有効に使う態度を養う。

#### 二、指導の計画

この仕事はその性質上、学校では分解・点検作業を通して故障修理についての技術的知識を中心に学習しその後のホームプロジェクトによつて、故障のばあいに速やかに適切な処置がとれるような修理技術の習熟を期待できるように計画した。

電 気		学習項目		指導計画表	総時数(4)
アイロン	1	1*	1		
電 気		学習内容			
1	2	3	4	5	
電気の構造	各部の取り扱い方法	故障の原因	修理法(分解)	作業	

電 気		コンロ	
1	1	1	1
1	2	3	4
電気の構造	取り扱い方法	故障の原因	修理法(点検作業)

(註) \*印は本時の位置を示す。

#### 三、本時の準備

- 1、各グループ毎に、家庭のアイロンを持参させる。
- 2、各グループ毎に、ネジマワシ・スパナ・丸ペンチなどの工具を用意する。
- 3、電気アイロンの構造と分解順序を示す掛図を準備しておく。

#### 四、本時の指導

##### A、導入段階(十分)

- 1、視覚教具を使用して、電気アイロンの分解順序を指導する。

- 2、分解に際して必要な注意を与える。

##### B、展開段階(三十分)

1、生徒に電氣アイロンの分解作業をさせる。

2、教師は各グループを巡回して、その作業を助ける。

3、電氣アイロンに起り易い故障を話し合う。

4、各部修理法の大要を既得の知識と関係づけながら話し合う。

5、故障修理の経験を話し合い、それが適切であつたか否かを反省させる。

6、生徒に電氣アイロンの組立作業をさせる。

### C、整理段階（十分）

1、アイロンの故障の原因と故障の状態についてまとめる。

2、使用工具の手入れ、後始末をさせる。

3、ホームプロジェクトの結果について、レポート<sup>法</sup>を提出させる。

### （注）レポートの項目

1、実習の目的

2、実習の日時

3、使用用具と材料

4、実習の方法

5、実習の反省（電熱器具について、この項をつぎに例示する。）

(1) 故障発見は早くできたか。

(2) 修理は正確にできたか。

(3) どんな点に困難を感じたか。

(4) 事故がなかつたか。

(5) 仕事の成功、不成功についてはどうか。

(6) この仕事を興味をもつて続けられたか。

なお、以上の反省の各項目は、具体的に自由に記述させる。機械的な記述尺度法による反省は無意味であるから使用しない。

（東京都杉並区立和田中学校）

### 職業・家庭科

教育手帳（価一〇〇円）  
（送 八円）

職業家庭科担任の必携として行事、予定記入欄その他を設け附録に産業分類、職業分類、産業教育振興法等々、百六十ページにわたる厚手クロス表紙体裁のよい手帳である。入用の方は、前金にて本研究会宛申込みのこと。

### 寄贈資料

○就職者はいかなる場合に

満足しているか

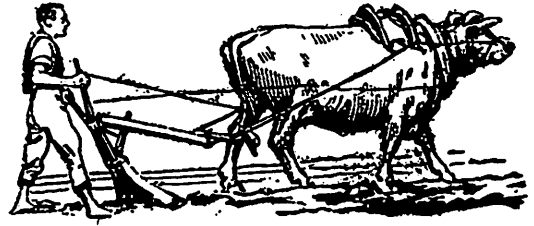
但馬職業家庭科研究会

○研究報告—職業指導

浜松市中学校生徒指導

研究協議会





われわれの

## 研究成果としての教科書

### 職業教育研究会

▽職業教育研究会とは

昭和二十二年、わが国教育民主化の重要課題として、従来の強制的な国家主義的国定教科書

制度を廃し、検定教科書制度が設けられ、その推進に全国教職員の組織である日教組が非常に努力したことは、周知の通りである。

その後昭和二十四年検定教科書が出現するまで、日教組は実際家を中心として、当時の委員長荒木正三郎氏を代表者とする教科書研究協議会を作り、教科書の編集に乗り出したのであつた。これは、明かに実践によつて官僚による旧教科書制度を打破しようとしたものであつたが、その成果は二、三の教科書が検定をパスしたのみであつた。

その検定をパスしたものの一つに「職業」三冊があつた。昭和二十六年度には、他に職業指導協会の「職業と知識」があるのみで、職業科の検定教科書はこの二種類だけであつた。

かくて教科書研究協議会は、任務を終つて分散したのであつたが、前記「職業」の編集に當つた実際家が中心になつて、昭和二十四年二月発足したのが、わが職業教育研究会である。

その頃すでに文部省では、新しい職業・家庭科の構想が進められ、従来の実業科的な考え方から一步前進しようとしていた。われわれの研究會でも、それに並行して職業教育の本質の究明に研究を進め、トライアウトの実施を始めていた。前記「職業」の中にその片鱗を見せているが、職業指導協会の依然として変らない心理主義と

は、全く対照的立場をとつていた。そして、職業科文庫を始め、職業実習書（生徒用）を刊行し、職業教育掛図の製作、平凡社の職業科事典の執筆に協力した。

昭和二十五年九月、改訂された職業・家庭科の指導要領による教科書検定基準が発表されたので、それに基いて教科書の編集に全力を傾けることになり、従来の研究成果をあげて教科書に反映することに努めた。決して出版社が俄に作つた編集のための研究会ではないのである。どこまでも、教育実行家を主体とする日教組の最初の方針を堅持する研究団体であり、教科書を作るだけ为目的ではなく、正しい職業教育を研究し推進することを中心使命としているのである。

#### ▽教科書に対する態度

以上の本研究会の性格によつても判るように、われわれは常に文部省の方針に対しては、実行家の立場から批判的態度をとり、是は是とし非は非として、その前進を図ろうとするものである。

改訂された文部省の学習指導要領の委員の中にも、われわれの研究に参加している方がいるが、あの改訂試案については、必ずしも全面的に賛成しているものではない。まだ研究の余地の残されていることは、文部省自体でしばしば言明している通りである。

従つて、その指導要領により検定基準という制約の中におかれた教科書の上に、正しい職・家のあり方を打建てるには、並々ならぬ苦心をした。

また教科書の都市中心、農村中心、家庭中心といったわけ方も賛成し難い。都市だから商工、農村だから農業、家庭だから家庭の仕事という考え方は、あまりにデスクプランで、生徒の実状に添わない。殊に女子の職業教育が、家庭中心で閑却される欠陥がある。

果せる哉、都市中心が商業の教科書とかわりないものや、家庭中心は申合せたように、従来の家庭科から一歩も出ないような教科書が多く出ている事実は、職業教育大系の本質から考えて誠に遺憾である。わが国の社会的要求に基いた基本的な技術を、都市、農村の区別なく、男女にかかわらず取上げられなければならないと考える。

#### ▽教科書に現われた特色

われわれは、こうした考え方を、三種の教科書で如何に盛り上げるかに苦心をしたが、出来上つたものを、他のものと比較して見ると、そのことが不十分ながらも、にじみ出ていることは、各教科書の目次を見ることによつて明らかであろう。ここに、つぎのような特色を見出すことができる。

一、文部省の新方針を忠実に守り、しごとの全分野にわたつて豊富な資料を提供している。

二、基本的技術の分析に重点をおき従來の心理主義から脱して、新しい職業教育の方向を示している。

三、しごととインフォメーションの融合をはかり、重要産業の社会的経済的理解を深めるようにした。

四、家庭向にも職業的教材を多く取り入れ、女子の職業的進出に備えた。

五、わが国にとつて重要な水産のしごとを、これほど多く取り入れた教科書は他に見られない。

これらは、何れも職業教育において当然のことであるが、他から出されたものの中には、この線から離れたものが少くないため、特色と見られるに至つたものである。

殊に家庭中心の教科書に、職業教材としてインフォメーションを多くとり入れたことは、大きな特色となり、また農業中心の教科書に、水産教材を多く取入れているのも他にない。ために、何れもページ数が文部省の規定(二四〇ページ)に近いものとなつた。

▽教科書の採択について

検定教科書制度の長所として、教育実家に主権が託されていることは、別稿池田氏の文に明かであるが、職

業・家庭科という教科が仕事を中心に各学校においてカリキュラムを構成される性格から見て、教科書は、どこまでも副次的なものであり、資料である。

故に読みやすいとか、一見してやさしいとかいうことではなく、内容が正確かどうか、職業科のねらいである基本的技術がよくとり入れられているか、インフォメーションが全職業にわたつているかというような点に採択の目安がおかれなくてはならない。

教師に採択の主権があるということは、生徒たちを正しく導く直接の責任を持つが故である。その意味から、教師にはその教科の本質と教科書の良否を判定する能力を必要とし、他からの誘惑や圧迫によることを極力防ぐ任務を持つている。

われわれは、われわれの編集した教科書を決して万全のものとは思っていない。色々な欠点のあることを反省している。現在到達している研究の結論からは、三種の区別を廃しもつと圧縮し、最低必要教材を明確にすべきだとしているが、現段階においては、文部省の方針に照し合せて、この程度で満足するの外はないのである。切に良識ある実家各位の批判を乞い、かつ学習資料として、本教科書が採択されるならば、望外の幸と思う次第である。

# 教科書検定制度を活かす

——その欠点と長所——

池田 種生

かつての国定教科書は、文部省という官僚によつて作られ、国家の政治的意図により、特に封建性温存と軍国主義鼓吹に用いられたことに対して、終戦後まずその制度を廃して教科書検定制度がしかれた。

これは連合軍の占領政策の一つであり、殊にアメリカの方式をとり入れたもので、他の多くの制度改革と同様、十分民主主義を国民全体が把握し理解し、実行された上のもではなかつた。ただそうなつたから、そうする位の消極的な態度で、眞に、国定に比して検定の持つ長所、反対にその欠点を理解していないように見られる節が少くない。

教科書検定制度の特色でもあり、最も重要性を持つ長所は「教育実家が主権を持つ」点にある。編集・検定・採択に教育実家が参加して、官僚によつておしつけられた教科書を排除する点にある。

所が、昭和二十二年検定制度の審議が始められ、昭和

二十三年制度の確立を見て、廿四年検定教科書の出現を見て以来、今日に至るまで数多くの検定教科書が出されたが、まだその長所が十分發揮されない中に短所のみ眼につくのは何故であらうか。

まだ十分国民が民主化されない中に、主権在民の憲法をぐらつかせようとしているように、「主権在实际家」の教科書検定制度も、或はまた「主権在官僚」とならないともいえないのである。民主憲法を守るものが、主権者たる国民であるように、検定制度を守るものは主権者たる实际家であるとの確信を持たねばならない。どうでもよい——では、自ら権利を放棄するに等しいので、それ見たことかと独裁的権力者にその権利を奪われること必定である。

## 二

現在あらわれている顕著な欠点は、何れも教育実家の力の弱さに起因している。

1、数多くの検定教科書に实际家は参加したが、あまり多数でしかも粗悪品が少くないこと。

2、検定調査を实际家に依頼したが、十分に時間を与えず、研究不足のため、訂正する力がなく却つて調査員自体が誤っている例もあること。

3、採択に當つて、期間的に短いことと、上からの圧迫

によつて、統制されたり、よい加減に妥協していること。

4、暗の力として、出版社の競争によるきより応の事実、退職校長などが縁故を頼つて売りつけ、生活の手段としてゐること。

以上のような欠点は、検定制度にはつきもので、最初から予想されることである。これらを克服して、十分長所を發揮するようにしなくてはならないのに、各地の教育委員会事務局では、必ずしもその方向をとつていない。

前記の中、第一と第二の欠点は、何といつても教育実家の実力養成が望まれ、大いに水準を自ら高めるよう努力されたいと思う。

第三、第四は、教育委員会、または何々委員長といった人の猛省を望まずにはいられない。

要は、教育実家に研究の機会を与え、その意見を尊重し、出版社の不正な販売方法に対しては、誘惑されず断乎排除するよう努めなくてはならない。

### 三

しかし、検定制度の長所は、実はこれらの欠点を逆用することにもある。出版社が送りつける教科書、宣伝物によつて内容を比較研究し、また編集者が進んで開催す

る研究会に出席して、学ぶこともできるのである。

それによつて、自己の向上を図り、水準を高める機会ともなるのである。

中には、欠点の中の第四にのみ神経過敏になつて、話をするのもオツカナびづくりであつたり、無料で計画される講習会を断つたりして、研究の機会から教師を遠ざけようとするような指導員や校長が、時々見られることは、教科書検定制度に対処する資格を有しないもので、やがては、この制度の長所をつみとつて、官僚統制の手に渡す結果に導くものといえよう。

われわれは、そうしたものにビクつくことなく、職業・家庭科の進展のために前進する実家の団体である。批判と自己反省を唯一のよりどころとして、教科書検定制度を守り、その長所の完成に向つて推進したい。われわれの研究の成果である教科書がよいか悪いかは、実家の判定にあり、採否また実家にある。われわれもまた協力して、その欠点を克服するよう努力したいと念願しているのである。(職業教育研究会常任理事)

インフォメーションには

立川 圖書の「職業」(改訂版)を

# 兵庫県北部の職業教育

地方だより(3)

仲 井 明

但馬職業教育研究会が呱呱産声を上げたのは四年前のことである。その誕生地は兵庫県の北部、城崎温泉の周辺の地域である。但馬牛のねばり強さを以て同志は互に励まし合つて研究に精進し、今日に至つてい

る。我等の念願としている所は、職業家庭科の教師の地位が余りにも頼りなく、然るに現在の日本の社会が職業家庭科に対して期待する要求が余りにも大きいという矛盾に、何等かの打開の対策を確立せねばならぬといふことである。

過般の国会に於て、産業教育振興法が通過したことはこの教科推進のために、衷心感激を覚えるものであ

るが、その実績がはつきり現れるまでにはなお数年を要するであろう。従つて現状に於ては中学校教育にあつてまだこの教科の地位は尊重されないで、悪く言えばお添え物の感を抱かざるを得ない。

ここに於て我々同志の奮闘努力は無から有を生むに等しいというとも過言ではあるまい。我々は職業家庭科の担当教師としての資質を向上させるため研究をつみつ、一方職場の見学や技術の練磨によつて実力と識見を養つている。つぎにその概要を述べる。

## 1、指導手引の作成

既に此の種の研究物や出版物は、坊間に山と積まれてはいるが、惜し

い哉、我が地方の実情にそぐわない憾みがある。この事は何れの地方に於ても夫々の特殊事情から眺めて、きつと共通的に感じられることであらう。

また文部省の方針によれば、四分類十二項目を一人の教師が教えなければならぬことになるが、何といふ苛重な要求であらう。現在この過渡期的な時代の担任者に対しては誠に至難な要求といえる。

そこで我が会は、同志の力強い協力の下に、それぞれの特殊な経験と知識を結集して、郷土の地域社会に立脚して、指導の手引を編集すると共に、昨年一カ年間を費して来た。幸に所期の目的を完成し目下着々出版利用して、斯科の教育指導に大いなる効果をもたらし、彼岸に光明を認めている。

## 2、幻燈スライドの作成

本地方には近代的な労働市場がな

いので、中学校の卒業生は、いや応なく、遠く京阪神に大多数が職場を求めて就職せねばならない現状である。多くの先輩は、色々な壁にぶつかりながら耐忍苦闘をつづけ、但馬人の美質を発揮しつつ、与えられた職場を守っている。若しその実況を視察出来たら、後輩はきつとその後を継いで行くであろうに、僻遠の地としては施す術なしと今日まであきらめて来ていたのであつた。

併しわれわれはこれまた、研究協議の結果、天然色サクラフィルムに現場を撮影して、幻燈写真として後輩たる生徒に見させる方便を実現した。現にこのスライドは各校に巡回して、進路の指導に甚大な貢献もたらしている。

### 3、就職者の実態調査

この種の調査は何れの学校でも多少実施されていることであつて、別に珍らしいことではないが、吾人が

言わんとすることは、その統計法なり結果の考察が旧套を奪していないということである。具体的に言えば平均を出したり、%を出したりしているに過ぎないと思うのである。吾々は、これではいけないと思うので調査の統計から、客観的、実験的、定量的な何物かを把握し、進んでは推計学的に根本的意味を誘導し理解して見たいと思つたのである。(具休案省略)

### 4、ワークブックの作成

新教育の特色は生徒の生活中心の教育であり、自発能動の教育であるとも言える。この立場からわが会はインホームションの学習帳を三年前に作成し、以来使用して、その不備に改訂を加えつつ、教授の實際に、より良い効果を求めつつ進んでいく。

本年も、兵庫県及び京都府で予想外の好評を博し、多数の採用校を得

たことは、編集者のわれわれとしては眞に満足の至りである。若し更に新に御試用願える向きには、少々残部があるので至急の御申込みには直ちに配布を致すつもりである。

×

以上当地方同志の強じんなる協力とその旺盛な研究熱の一端を紹介し大方諸賢の御支援と懇情に訴えて御指導を希つて止まない。

われわれは、職業教育の實際面に甚だ多くの難問題の殺到していることを知つているが故に、今後益々強力に結束を堅くして、打開の途を開きたいと念願しているものである。

(兵庫県豊岡市南中学校内  
職業家庭科教育研究会)

☆

☆

この種の地方だよりをどしどしお寄せ下さい。四百字原稿紙五枚以内願います。

## 各地の研究講習会

本研究会では、四月新学期に際して、混とんとしてゐる職業・家庭科教育を推進し、その正しいあり方を説明するため、本研究会関係の講師による研究講習会を関東地区を主として、積極的に展開した。

本号メ切までには、つぎの四カ所が開催され、非常に効果を上げた。状況の概要はつぎの通りである。

### 栃木県田沼中学校

(五月十三日)

葛生中学校小幡校長の熱意によつて、安佐地区(安蘇郡・佐野市)職業・家庭研究会主催で、田沼中学校で開催された。

講師には、文部省学習要領委員・東京都教育庁主事杉山一人、同じく文部省委員・東京都教育大学附属

高校教諭田口尙子氏、東京都牛込第一中教諭高薄重夫氏。杉山、高薄両氏は前日佐野市に一泊し、当日田口氏と落ち合つて会場である田沼中学校に向う。

教育課長、指導主事をはじめ、新井田沼中学校長、小幡葛生中学校長等に迎えられ、会場には安蘇郡、佐野市の職業・家庭科担任の先生が数十名集合していられた。

午前九時半開会、杉山講師の演題は「職業・家庭科の性格と目標」で一時間半にわたり学習指導要領について説明し、技術と技能についての解釈を明かにして、その向う処を示された。終つて活ばつた質疑応答があり、会員には得るところが少なくなかつたようである。

正午休けいの間に、講師は田沼中学校の実習室などを見せてもらったが、昭和二十六年栃木県総合実験学校、昭和二十七年文部省指定学

校だけに、他校に比して格段の相違が見られた。

午後は職業と家庭の部会にわかれ職業科では高薄講師のカリキュラム構成の基準、学習指導の方法と評価の仕方についての講話があつて討議にうつり、指導要領をめぐつて色々な質問が出た。家庭科では田口講師を中心に、学習の実際指導について話し合いが行われた。

かくて午後三時、有意義に講習会は終了、未開拓の部分の多いこの教科の指導に、会員は何等かの獲物があつたと思う。教育課長の熱意、田沼中学校長新井作太郎氏の幅の広い人間性豊かな人格、葛生中学校長小幡喜春氏の教育道精進の姿などがかもし出しているこの地方の教育には実に快よい印象をうけた。

### 群馬県渋川中学校

(五月二十日)



北群馬郡を中心に、職業・家庭科担任約四十名、前橋市立第三中職業科主任高橋辰一氏、県教育委員会出張所長狩野藤太郎氏なども見えていた。

開催校渋川中学校校長今成善文氏には、前日十九日夜会い、当日は開会の挨拶があり、最初に国学院大学助教授清原道壽氏の一時間にわたる講話があつた。現在の教育思潮の立場から職業・家庭科指導要領を批判し正しいこの教科の性格を、生産教育の立場から規定した。教育内容についても日本の独立と平和の要望に添うよう、更に改められる必要を説いて、多大の感銘を与えた。

続いて本研究会常任理事池田種生氏が、教科書の内容と扱い方・見方を説明し、特に家庭科中心の教科書に職業教育の欠けている点を指摘し、この方面の教育が女子にとつても必要であることを力説した。

正午休けいの後、午後一時より鈴木壽雄氏は、トライアウトの学習指導について、基礎技術の指導、修理に関するホームプロゼクトの問題など、実家に正しい指導の仕方を示して、多大の共鳴を得たようであつた。

午後二時から質問討論に移つたが、何れも眞摯で活ばつた質問応答が行われ、現在の学習指導要領及び教科書を参考として、各校のカリキュラム構成が必要である点に一致を見た。また従来の考え方から一歩前進した感を深くした。

全体の印象としては、会員が積極的でこの科に対する熱意のあることがうかがわれたが、女子の少かつたことは少々遺憾であつた。今成渋川中学校長は理解も深く人柄にも好感が持たれ、今後のこの学校における研究に期待されるものを感じた。

### 茨城県高萩中学校

(五月二十六日)

前日の廿五日夕、清原、池田、鈴木、菅間(女)の四名は、高萩町高萩館に一泊。日曜日のためか学校からは誰も見えなかつた。

午後十時開会、清原氏は大学講義の関係で一時間ほどの講演をして、十二時の汽車で帰京した。内容は、渋川におけるものと殆んど同じであつた。引つづいて池田氏が話し、これもまた渋川同様。正午休けい後一時から鈴木氏、二時から菅間きみ子女士の家庭科の実際についての話があつて、質疑応答を行つた。

あまり活ばつとは言えず、帰る汽車の関係もあつて、早く切り上げたが、残つた人たちが講師をかこんでの質問は活ばつに行われ、それを通じて二、三の学校で熱心になされていることがうかがわれたが、概して

低調だと感じられた。しかし女子の方が多く出席され熱心であつたのが注目された。

今日一日の印象では、何かしら奥歯にもののはさまつたといつたものがあり、すなおな空気を阻害していたようである。ために、各講師の講演がよくうけとられず、実際家との間にびつたりしないものを講師は感じられたようである。これは教育進展上残念なことで、つとめてそうした阻害物を除くようにしたいものである。

### 群馬県中之條中学校

(五月二十八日)

廿七日午後七時半、中之條中学校渡辺校長に迎えられ、その夜は四万温泉に一泊。当日午後九時すぎ中之條中学校に行く。

午前十時開会、吾妻郡全中学校の職業科、家庭科の先生その他約四十

名、最初池田種生氏が検定教科書の欠点と長所より説きおこし、殊に家庭科教科書について、今後の家庭科のあり方と共に説明した。

引つづき東京都教育庁主事杉山一人氏は、文部省学習指導要領委員の立場から、その性格と目標をいかに解すべきかを懇切にのべて、根本的態度を説き、多くの感銘を与えたりであつた。

正午休けいの後、やはり文部省委員で、農村向について碓中学校で実践していられる中村邦夫氏の、實際経験に基く農業技術についての指導講演は、この地方が農村地域であるだけに、非常に適切で、共感される面が多かつたようである。

家庭科の担任先生の出席が多く、最後まで熱心に耳を傾けていられた。質問に入つて、時間の関係もあつたが、もつと現在直面している悩みをぶつつけてほしかつたと思つ

た。

郡全体として特に目立つてはいないが、着実な研究が進められているようであり、今後の進展に期待されるものがあつた。中之條中学校の渡辺校長は、実によい人柄で現在郡教育研究会長として、各科の教科研究部を率いていられるようで、この科の重要性に対する認識も相当深いように見うけられた。

### 六月の予定

- 静岡県興津中学校 (六月五日)
- 同 浜松中学校 (六月六日)
- 兵庫県和田中学校 (六月七日)
- 山形県米沢第一中学校(六月廿日)
- 栃木県烏山中学校 (六月廿八日)

☆

☆

☆

☆

## 研究會だより

▽  
機関誌の毎月刊行も漸く軌道に乗り、会費の納入も急増し、会員の意識が高まつて来たことは、實際家の関心の上昇を物語るものとしてうれしい。今後はこの会誌を会員のものとし盛に投稿されるようお願いしたい。

▽  
本号では、職業教育と生産教育について清原氏の稿を主論文として、高薄、鈴木両氏の具体的な單元学習案を特集した。これらは實際家各位に直ちに役立つことと思う。

本年度の教科書採択を前にして、本研究会の編集した教科書の特色、また検定教科書制度の活用についての池田氏の稿は、それぞれ、實際家の立場に立つての見解で、大いに参

考になると思う。

▽  
なお地方便りを寄せられた仲井氏は、兵庫県豊岡市南中学校の新進氣鋭の士。職業教育の研究に新しい感覺を持つてゐる方である。この種の投稿を切にお願いする。

▽  
十万円のできる第二類関係の教具基準表を前号に出したが、それに伴う運用・消耗品基準表は、できてゐるが、ページの都合上次号にまわすことにした。

▽  
四月新学期以来、主として関東地方を中心に呼びかけた、職業・家庭科研究の講習会は、非常に好評を博している。今後年間を通じて進めていく方針である。進んで御利用されるようお願いする。少数の研究座談会のようなものにも、近い所ならすぐ出かける。遠い地方でも、できるだけ講師を派遣したい。お互に眞摯な気持で純粹にぶつかつていき

たいと思つてゐる。

▽  
毎度のことながら、会費未納の方は何卒よろしくお願いします。

▽  
教科書採択の時期が来ました。

われわれも生みの親として、自分たちが熱意をこめたものを、ぜひ御採択願いたいと思ひます。少くとも十分比較して頂いて、正しい判定を下さるようにと切願してゐます

昭和27年6月10日印刷

昭和27年6月15日発行

【定価 金二十円】

編集兼 池田種生  
発行者

東京都千代田区一ツ橋  
教育会館

発行所 職業教育研究会

振替東京七二七番

# 中學校 職業・家庭科教科書新定價表

教科書番号	学年	教科書名	判型	定價	一頁当り單価
中七二〇職	一年	楽しいしごと (家庭向)	A 二一八	80円	36 匁
中八一三職	二年	新しいくらし (家庭向)	A 二二四	80円	35 匁
中九一三職	三年	生活の設計 (家庭向)	A 一九八	80円	40 匁
中七二一職	一年	しごとの喜び (都市向)	A 二五二	88円	34 匁
中八一四職	二年	働くちから (都市向)	A 二五四	88円	34 匁
中九一四職	三年	将来にそなえて (都市向)	A 二三六	88円	37 匁
中七二二職	一年	村のしごと (農村向)	A 二四八	88円	35 匁
中八一五職	二年	大地とともに (農村向)	A 二五四	88円	34 匁
中九一五職	三年	明かるい農村 (農村向)	A 二五六	88円	34 匁
中七四三職	一年	将来の希望 [改訂版]	A 九八	35円	35 匁
中七〇五職	二年	自己をみつめて	A 八六	30円	34 匁
中七〇六職	三年	進路の決定	A 五四	20円	37 匁

☆ ☆ ☆  
 本教科書の定價について

教科書の定價は、文部省によつて今年度から一ページ当りの最高價格が決められました。ですから、各社発行の教科書の定價のちがいはページ数の多少によつてのみ生ずるのであります。

弊社の教科書の特色は、教科書の正しいあり方の立場をまもり、学習指導要領に定められた教育内容に忠実に準拠し、

1、しごとについては、代表的な基礎的技術を網羅したこと

2、インフォメーションについては、他社刊行の教科書と異なつて豊富な資料を提供していること。

以上の理由から、他社刊行の教科書に比べるとページ数が多くなり、従つて定價も高くなつてゐることを御諒承下さいますよう御願ひします。

(職業・家庭科の一ページ当り最高價格は四五匁と決定されました。本教科書の一ページ当りの價格と御比較下さい。)

☆ ☆ ☆

立川図書株式會社

東京都 中央区 5の5  
 銀座東

33  
 立川

發行所